

ウリNARAチョチョン(朝青) 朝高卒業祝賀モイム



4月23日(土)午後7時より近鉄大和八木駅前の居酒屋わんにて、今年大阪朝鮮高級学校を卒業した奈良出身生たちを祝う卒業生祝賀会が行われました。今回の祝賀会は高一柱朝青委員

長によって企画され、この春朝高を卒業生した金志頭トムム、趙尚愛トムムを朝青員の金志徹トムム、呉華蓮トムム、劉英剛トムム、権愛美トムムがお祝いました。祝賀会は高一柱朝青委員長の乾杯の音頭で始まり、卒業生たちは各々の将来への抱負について語りました。そのほかの参加者たちから様々な話が飛び交うなか、場は盛り上がりみんな楽しいひと時を過ごしました。トンボヨロブン!これから朝青の活躍にご注目ください!(徹)

大阪から引越してきました!

鄭大督トムム(29才) 梁利奈トムム(29才) ご夫妻 お住まいは 榎原神宮です。よろしくお祈りします!

結婚おめでとう!

この度めでたくご結婚されたトムムたちを心から祝福いたします。 新郎 梁展豪トムム(任美智子氏 次男) 新婦 韓純華トムム(韓亨道氏 長女) 挙式5月22日 新居は大阪市生野区

ケシパン(掲示板)

- 6月 5日 『ウリウリコッポンオリコンサート』(大阪天満橋エルシアター1時)
11日 奈良子育てクラブ 『立子刈(こくま会)』:竹取公園
18日 教育講演会(東初ハッキョ) (当日授業参観後の11時から)
7月 3日 『青商会2011民族フォーラム in 岐阜』(岐阜長良川国際会議場 正午~)
8月 6日 奈良トンボ納涼大会(予定)(奈良ハッキョ、夕刻)

編集・発行/奈良県同胞生活相談総合センター 〒630-8131 奈良市大森町54番地

TEL 0742(26)5139 FAX 0742(26)5141

E-MAIL nara_ponbu@yahoo.co.jp

奈良トンボトンネ情報誌 創刊号 Vol. 1号 ご意見・ご感想お待ちしております。

救援募金協力を御礼申し上げます。

被災した同胞へのご協力コマッスムニダ! とどけ私達の祈りと心!がんばろう東北の朝鮮学校と同胞達!

約83万円を送金



東日本大震災で震災直後、総連奈良県本部がただちに被害者達を救援すべく募金活動を展開するや否や即刻心温かい日本の友人が義援金3万円とダンボール2箱を、同胞女性が2万円と20キログラムのお米を、ある同胞ハルモニが乳児用粉ミルクとおむつを持って来て下さったばかりでなく、多くの同胞、日本の方々の熱い心で震災後1ヶ月の

期間に救援物資と義援金40万円が集まり、4月11日に総連中央対策本部を通じ被災地に送る事ができました。ヨロブン テダニ カムサナムニダ! そればかりでなく、その後の募金活動とチャリティーコンサートの収益金を合わせて、合計83万762円の義援金を朝鮮学校復旧と同胞救済費用に送る事が出来ました。なお今回の義援金参加者は5月25日で現在71名に上りました。(チャリティーコンサートでの参加者除く)



詩人の河津聖恵さんは、ご自身の詩集代金を全額募金下さいました。

熱い心と団結! 感謝、感激!! チャムロコマッスムニダ! 今後ともみなさまのご支援、ご協力をお待ちしております。

購読会員・賛助会員募集!是非ご協力願います。

この情報誌はみなさまの暖かいご支援のもと作成配布されています。
◇購読会員(年間1口1千円から) ◇広告協力
◇賛助会員(年間1口1万円から) 広告掲載金1万円

奈良トンボ情報誌 タイトル決定

この度、皆さまからご応募いただきました情報誌タイトルから厳選しました結果、大阪平野区にお住まいの柔道整復師、奈良ハッキョ26期卒業生の金洪哲さん(30才)が考案した『ナラニ』に決定いたしました。金洪哲さんには編集部より金1万円を贈呈いたします。

編集後記

奈良トンボ情報誌のタイトルが『NARA.01』に決定しました。ウリマルで<나란히>=ナラニ>は並ぶ、列をつくる。<이>とは<사람>=ひと。中にある「.」はひとむかし前に使っていた사이 소리의表記。奈良と人を合成し「並ぶ」とする造語にトンボトンネを新しい時代に合わせ再構築しようとスクラムを組んで並ぶ奈良トンボの姿が浮かびます。奈良情報誌がようやくスタートをぎりました。今後ともご愛読のほど、よろしくお願い致します!

トンボの話題・役立つ情報あれこれ、心ふれあうウリトンネ(ご近所)をめざして!

奈良トンボ情報誌 ナラニ(나란히)



나라사람 奈良の人

奈良県から東大阪市(布施)の朝鮮学校へ 4人の初級部生と1人の幼稚園児が電車に乗って、1時間以上かけて

一総連奈良県本部委員長、大和八木駅通学班に同行一



通学同行ボランティアをする女盟本部部長とともに子供たちの電車通学を体験しました

現在、4人の初級部生、1人の幼稚園児が1時間以上かけて通っています。毎朝元気に乗る準急電車ですが、小さなお子さんは体の具合がすぐ変わりいつも不安でいっぱいです。重いランドセルを背負い満員電車で50分間立ったままの日もあればトイレに行きたくても行けず困ったときもたくさんあります。小さなお子さんの通学をご両親ご家族だけで担うことはたいへんなことです。いま女性同盟奈良県本部はこの子どもたちが元気に楽しく安心してウリハッキョ(朝鮮学校)へ通えるように多くの地域の方々による通学支援ボランティアの参加を呼びかけています。ひとりでも多くの声とチカラを求めています!

JR線でハッキョへ通うのが便利!



3年生の李炯燮さんはJR王寺からJR長瀬まで電車に乗り駅から学校まで一人で歩いて行きます。もう、アッパ、オンマがいなくても大丈夫!



この春、ピカピカの1年生になった伊春稀ちゃんと6年生の金煌奎オッパは7時25分に大和八木駅で待ち合わせです。駅まではアッパオンマが車で毎朝送ってくれます。



電車に乗ると毎朝やさしくて賢い2年生の文銘一オッパがいつも座席を準備してくれています。二人のオッパは1年生になった伊春稀ちゃんを本当の兄弟みたいに優しく、時には厳しく目配り気配りしながら通学しています。



朝50分間準急電車に乗ってやっと布施駅に到着しました。駅から25分の通学路をみんなで一緒に一生懸命歩いてウリハッキョに向かいます。



山本駅から電車に乗ってきたトムムたちと布施駅で合流します。1年生の春稀ちゃんはひとつ上の銘一オッパの手を放さないようにしっかり握り5年生のオンニのあとをついていきます。離れては走ってくつきま、また離れては走る姿をオッパたちがうしろで見守ってくれます。



幼稚園にオンマと一緒に電車通園!

この春、幼稚園3年保育に入園した李美優ちゃんは3歳。オンマと榎原神宮から布施駅まで毎日一緒に手をつないで電車通園です。布施駅で送迎車に乗るとみんなでニコリ。

「祈りと希望、心ひとつに…奈良朝鮮初中級学校卒業生とその仲間たち」



ヘグムアンサンブル ケナリ 李美香、朴琴順、呉華蓮、趙紋香

東北地方を中心に広範な地域を襲った未曾有の大震災…いままで様々なところで、いろんなかたちで救援活動に取り組んできた奈良同胞たちが被災地へのおもいをひとつにしようと呼びかけられたチャリティー公演。今なお多くの方が被災地で苦しい生活を強いられているなかで、一日も早くすべての笑顔が戻ってくることを心から祈りました。また震災が民族や国籍の壁をのり越え共に明日への希望につなげる惜しみない協力を心に誓うきっかけとなりました。

名門校の伝統、民族楽器奏でる

5月8日、奈良朝鮮学園の講堂は約220人の同胞、日本市民らであふれかえりました。コンサートでは、同校卒業生とその知人らが震災の犠牲者に哀悼の念を捧げるとともに復興への願い込めてソヘグム、カヤグム、チャンゴなど民族楽器を中心とした演奏を披露。同校の休校で沈んでいた奈良同胞社会に力を与える場にもなりました。この日の収益はすべて義援金として被災地に送られます。コンサートには、同校卒業生を中心に関西で音楽活動をくり広げている仲間が出演しました。また特別ゲストとして詩人の河津聖恵さん、許玉汝さんも出演し震災に関連したこのたび新たに創作された詩を朗読してくださいました。観客席からは演目が変わる度に大きな拍手が沸き起こり、ウリハッキョで民族楽器を習った卒業生たちが美しい民族の音色を奏でることに大満足していました。

今回のチャリティーコンサートにける強い思い

ヘグム独奏などを披露し出演者のまとめ役を務めていただいた李美香さんは、初級部4年生の時に母校に創設された民族楽器部でヘグムを習いました。母校の奈良ハッキョで教員をする前は、ことたびの震災に見舞われた茨城朝鮮初中高級学校で教員も務めていました。それだけに今回のチャリティーコンサートにける思いも強かったのです。「茨城ハッキョの元先生方からメールや電話で大変な状況にあると聞き個人的に一生懸命救援の呼びかけもしてきました。そんな中、私が茨城朝鮮初中高級学校で寄宿舎舎監もしていた経験からハッキョ寄宿舎で子供たちがどんなに不安にいるだろうと思うといたたまれなくなって子供たちが一日も早く安心してぐっすり眠りにつける日が来ることを願ひ祈る気持ちで「삼집야기(子守歌)」を演奏します。」と静かに演奏をはじめました。

教え子やそのまた教え子が音楽を続けている

「MMM」バンドの代表、裴眞珠さんは「教え子やそのまた教え子が音楽を続けていて、みんなに会えたことがうれしい。奈良の同胞は、学校の清掃や子どもたちの通学支援など愛校活動を続けていると聞いた。これからも同胞が集まる場を大切にしてほしい」と語っていました。



同校卒業生で現在、東大阪中級民族楽器講師 呉華蓮さんが民謡「トラジ」を独奏しました。



ピアノ伴奏の朱祥延さんも母校音楽教員でした。



ケナリの代表である李美香さんは卒業生であり、茨城と母校で音楽教員として教鞭もとってました。



ボーカルの裴眞珠さんとカヤグムとパーカッションの金清子さんは奈良ハッキョの卒業生で共に音楽教員でした。

女性同盟奈良 김치 판매

子育て支援活動としてのキムチ販売



ウリハッキョ通学支援活動、子育て支援のキムチなど朝鮮食品販売(5/8公演会場で)

小さなお子さんの子育てをご両親ご家族だけで担うことはたいへんなことです。女性同盟ではキムチなど朝鮮食品販売を通じて子供たちが元気に楽しくウリハッキョ(朝鮮学校)や幼稚園へ通えるよう支援する活動を続けています。また就学年齢前のお子さんをお持ちの子育てサークル「コグマ会(고구마회)」への支援活動を惜しみなく繰り広げています。キムチ販売の収益でこの春入園、入学した李美優オリニと尹春稀ちゃん、初級部を卒業した金煌順君と李香紀さんに記念品も贈りました。5月8日に奈良ハッキョで行われたチャリティーコンサートにもオモニたちは朝早くからキムチ販売の仕度にとりかかり多くの同胞と日本の皆さんに支援の輪を広げるアピール活動とともに仕入れたキムチと食品のすべてを完売しました。(写真)

この日の売り上げの一部は東日本大震災の義援金として被災地のウリハッキョにも送ることにしました。現在、東大阪初級学校と付属幼稚園に通っている5名を含め初・中・高級部に22人が奈良から通っています。

子育てクラブ『고구마(こぐま)』



4月16日、奈良ハッキョで子育てクラブ『고구마회(こぐま会)』が行われました。今年第1回目となった『고구마회(こぐま会)』では総連本部委員長がはじめて参加しました。クラブではまず、最近

出産された河弘美さんと金智明さんへ女性同盟が準備したお祝いのプレゼントが贈呈されました。またこの4月に入園、入学した李美優オリニと尹春稀ちゃんのオンマに女性同盟と奈良ハッキョ教育会から記念品が贈られました。4月に大阪から奈良県に引越してきた梁利奈さん



が新たに参加しました。この日の『こぐま会』では金恵淑さんと李純花さんが準備したカレーライスをみんなでおいしく食べて楽しいひとときを過ごしました。『こぐま会』は2ヶ月に1回、偶数月に行います。次回は6月11日、竹取公園にみんなでいきます！子育てオンマはもちろん、どなたさまでもここに来て遊んで行ってください。心よりお待ちしております！



※今後の開催

- 6月11日 竹取公園
- 8月27日 水遊び
- 10月22日 アニマルパーク
- 12月 餅つき大会
- 来年2月 親子いっしょコンサート(歌舞団)

より深い朝・日友好の絆を！

去る4月10日の奈良県議会議員選挙において奈良県議会日朝親善議員連盟に加入されている議員14人全員が見事当選を果たされました。県本部では早速、新人当選者1人を含む15人にお祝いのメッセージを送りました。

4月27日と28日には県本部新役員たちで奈良県議会藤本昭広前副議長と、同じく「奈良県議会日朝親善議員連盟」新谷統一会長を表敬訪問しました。



奈良県議会 藤本昭広前副議長

奈良県議会議員選挙で当選した議員にお祝い

郡哲珍新委員長の紹介と挨拶に始まり今までの朝・日親善活動、共和国訪問経験、そして、これからの友好親善活動、県下在日同胞達の生活環境、現在大阪方面に通学中の朝鮮学校生徒に関する問題などについて和気あいあいの雰囲気なか話し合われました。今年も友好の絆をより深めていこうという決意をお互いに確認することができた有意義な時間でした。



日朝親善議員連盟 新谷統一会長

「祈りと希望、心ひとつに…-奈良朝鮮初中級学校卒業生とその仲間たち-」



司会の李純花さんは橿原市在住の主婦、奈良に嫁ぐ前まで北関東歌舞団で活躍していました。



詩集「朝鮮学校無償化除外反対アンソロジー」発行人として活動と呼びかける河津聖恵さん。2月の詩の朗読会に続き震災関連作品『影』を披露しました。



一人じゃないよ、わたしたちは…許玉汝さんの詩『しっかりみるんだよ』は観衆の胸に強くひびきました。



この日、講堂が狭くて入りきれない観客のために舞台生中継用テレビを設置した視聴覚教室まで満員になりました。民族楽器をはじめ様々な楽器で演奏活動をしている奈良ハッキョ卒業生を中心に企画された公演をさせようと役員たちが同胞の家を一軒一軒訪問し、220人もの同胞、日本の友人が集まったチャリティーコンサート…同校舎内で行われた行事としては過去に類例のない観客動員でした。



※お知らせ：グーグル、ユーチューブの動画検索で“NARAKorea”と記入検索すれば公演当日の様子がアップされ見ることが出来ます。



チャンセナブ独奏の高嶺羽さんのご両親（高元秀氏、金明花氏）はともに奈良ハッキョの先生のころ職場結婚されました。その縁で駆けつけてくれました。



エンディングを飾ったチャングオーケストラSHIFAの『ピナリ』とサムルノリ。『ピナリ』、すべての厄をはらい誰も順調な暮らしを営めますようにとの祈りの歌。

公演当日感想文から（抜粋）

20代 男性 大和高田市

私はずっと近くに住んでいながら数年前まで奈良ハッキョの存在を知りませんでした。震災のための今回の企画がとて素晴らしい事もさることながら奈良の同胞たちがこんなたくさん、この「ウリハッキョ」に集まっている姿を見てとてもおどろき、またうれしくも感じました。

40代 女性 名張市 主婦

私は東北地方岩手県が故郷です。今回の大震災と大津波で涙がでる毎日をすごしています。実家は大丈夫でしたが海岸側の方達の多くの生命が犠牲になりました。他人事ではなく家族を失った思いです。朝鮮学校の音楽でとてもなぐさめられました。応援してくれる心に壁がないことがわかりました。この音楽、応援の心、東北へ届け！愛情いっぱい届け！不幸なことがないと大切なものがわからなくなってしまった時代です。今は心がふれ合うたび幸せを感じます。国境を越えて！！感謝です。カムサムニダ。

60代 女性 奈良市 無職

心にしみるコンサートでした。多くの震災者の悲しみ、痛み、苦しさを思うとき祈りを全身で表現し、みんなが一体となった思いがしました。復興の道がまだ見えない中、在日の方々には支援の届かない状況ではないかと案じられます。今日のコンサートに参加し、被災された朝鮮学校の復興、支援に政府が力を尽くすよう世論を高めなければと改めて確認できました。小さな力ですが、支援の輪を広めていきたいと思ひます。

「祈りと希望、心ひとつに…一奈良朝鮮初中級学校卒業生とその仲間たち」

奈良同胞社会に活気を!!
復興支援に立ち上がった若者の姿を見て、
奈良同胞の底力を感じた。

「民族楽器名門校」として名を馳せた奈良ハッキョをもう一度輝かせようと卒業生、元教職員たちが総連奈良県本部と各機関団体で構成された実行委員会の呼びかけに応じ出演しました。とくに30代の地域同胞青年たちがチケット販売、会場設営、当日の運営などに奔走してくれました。



復興支援にいち早く立ち上がった20～30代の若者たち

今回の公演の成功には被災地を支援したいという熱い思いが若者を突き動かしたといえます。それは同時に、県に唯一のウリハッキョがの休校し低迷した奈良同胞社会に活気を取り戻すための始まりにもなりました。公演準備と当日、終了後のこの一連の活動の中で次のように話す若者がいました。「…ウリハッキョ休校以降正直いって同胞社会が弱体化するのを見てみぬふりをしていました。この公演で奈良同胞がお互いにコミュニティを望んでいることが形としてわかった今となつては30代や40代が担っていかなくてはならないでしょう！」



彼は奈良同胞社会に潜在するニーズを捉えていました。彼らは今年3月初旬に集まり、以後4月に数回会合を持つなか30代の横のつながりができるようになりました。

そこに4月から新たに大阪から奈良県に鄭大督さん、李賢守さん、文成好さんが引越してきたことを知りその連携が広がっていくなか震災被害者同胞支援の本部の呼びかけに呼応しチャリティー公演準備に積極的に参加することになりました。公演当日はもちろん4月24日の日曜日と、公演前日は休みをハッキョの大掃除にささげ『一日労働』で汗を流し、公演会場の環境を整えてくれました。その結果このコンサートが成功しました。



文春基さんは「みんな呼びかけに応じて自発的に集まり動いてくれました。同胞は集まる場を求めている。それを生み出す若者もいて、力があることがわかりました」と語ってくれました。



奈良ハッキョ同總會となった打ち上げの宴

「数年ぶりに会う同胞もいた」
 「みんな笑顔でいっぱいだ！」



コンサート後の打ち上げは同胞の笑顔で賑わいました



コンサートに携わった奈良初中の卒業生たち



この日集まった卒業生と元教員が紹介されました

感動と涙のうちにコンサートが終了した後、運動場では実行委員と出演者、関係者による焼肉慰労会が開かれました。そこではこの日集まった卒業生と元教員が紹介されました。彼らの表情は奈良の民族教育にたずさわった誇りと自負心に満ち溢れていました。一人一人紹介されるたびに保護者や教え子たちが歓声をあげ、卒業生たちは「久しぶりに訪ねた母校が休校中にも関わらず、むかしのままの愛情に包まれていることに深い感銘を受けた」と語りました。この日は、被災地の人々の復旧を支援しようという思いで企画された場ではあったのですが、それと同時に奈良の同胞、卒業生にとって新しい出発の日になったように感じられました。『…母校はいいよねえ。やはりウリハッキョがいいよ。学校は青春そのものですよ！正門前の桜の木も花壇の花々も昔のように私たちを迎えてくれた。まさしくここは懐かしいわが家、私たちみんなの心のふるさとだよ…』異口同音にそう語る元教員と卒業生の姿が見えました。